

【開幕】2021年度春夏プログラム

りんご宇宙—Apple Cycle / Cosmic Seed

2021年4月10日（土）- 8月29日（日） 弘前れんが倉庫美術館（青森県・弘前市）

雨宮庸介、ケリス・ワイン・エヴァンス、河口龍夫、タカノ綾、和田礼治郎

+

ジャン=ミシェル・オトニエル、笹本晃、潘逸舟（ハン・イシュ）



奥： ケリス・ワイン・エヴァンス
『Drawing in Light (and Time) ...suspended』
2020年 弘前れんが倉庫美術館蔵

手前：和田礼治郎《琥珀の井戸》2020年
作家蔵 Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE
Photo: ToLoLo studio

弘前れんが倉庫美術館は、2021年度、開館2年目をを迎えます。今年度の展覧会は、英国を代表する現代アーティストのケリス・ワイン・エヴァンスによる新作コミッショナーウーク（委託制作）を基点に、異なるテーマのもと、複数のアーティストの作品からなる展示を入れ替える形で、春夏プログラムを第一部、秋冬プログラムを第二部として構成します。

世界的に活躍するケリス・ワイン・エヴァンス（1958年～）は、ネオン、音、鏡などの素材を用いて、哲学や音楽、天文学、物理学など多様な分野に基づく作品を制作しています。ワイン・エヴァンスは、弘前でのリサーチで出会ったりんごと美術館の建物からインスピレーションを得て、展示室の吹き抜け空間に合わせた巨大な灯（ともしび）、あるいは光のトーテムのような作品を生み出しました。この弘前のための新作は、りんごの断面のフォルムや万有引力の公式、惑星の軌道といったモチーフをグラフィカルに組み合わせた光の彫刻です。

第一部となる「りんご宇宙—Apple Cycle / Cosmic Seed」では、りんごをめぐる豊かな思考と想像に着目し、国内外8名のアーティストによる多様な作品を紹介します。りんごは、西洋美術史において、古来より豊穣や生命のはかなさなどの象徴として多く描かれてきました。本展は、必ずしもそうした表象のみを取り上げるものではなく、現代のアーティストらによる、りんごを素材とした新たな創作アプローチや、生と死、循環、種子、変容などに関連して、りんごという日常の身近なものから宇宙規模に展開される豊かなイマジネーションのかたちを紹介します。

また、本展には2020年度に当館で開催した「Thank You Memory—釀造から創造へ」展の参加アーティストも加わります。ジャン=ミシェル・オトニエルによる新作コミッショナーウークを長期展示するほか、笹本晃によるパフォーマンスの実施も予定しています。2020年度の「弘前エクスチェンジ#01」の招聘アーティストである潘逸舟も加わり、地元の中学生らとのワークショップやリサーチを通して制作した新作が展示されます。

さらに「弘前エクスチェンジ#03」では、西洋美術史におけるりんごの表象や、りんごに関する地元の研究や取り組みなども紹介し、様々な角度からりんごの豊かさと可能性についても触れる機会になるでしょう。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当: 大澤、石川（公）

TEL : 0172-32-8950 FAX : 0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1

展覧会のみどころ

1. ケリス・ワイン・エヴァンスの新作コミッショナリーを初公開

ケリス・ワイン・エヴァンスの新作コミッショナリーを新たな収蔵作品として、春夏プログラムから秋冬プログラムにかけて、2つのシーズンにわたり吹き抜けの大空間で公開します。「植物としてのりんごの生」、「りんごからシードルへの加工・生産の残像」、「原罪の比喩（欲望・原動力）」、「ユリイカ（わかった！）の瞬間」、「ニュートンの万有引力から導かれる宇宙の自然法則、太陽の周囲をめぐる軌道」など、りんごをめぐる思考と発想をもとに、高さ約7メートルのダイナミックな彫刻作品が展示されます。

2. 8名の現代アーティストによる、本展に合わせた新作を含む多様な作品群で構成

ケリス・ワイン・エヴァンスに加え、雨宮庸介、タカノ綾、和田礼治郎、潘逸舟も、この場所に合わせた新作を発表します。各アーティストの代表作から近作を含め、絵画から映像、インスタレーション、パフォーマンスまで多様な作品群をご覧いただきます。

3. ジャン=ミシェル・オトニエルの長期展示作品がついに公開

新型コロナウイルス感染症の影響で展示が遅延していた、ジャン=ミシェル・オトニエルによる新作コミッショナリー《エデンの結び目》が1階受付カウンター横の開放的な空間に長期展示されます。直径2メートルにおよぶ大型のガラス彫刻作品が、今後数年間にわたり奈良美智の《A to Z Memorial Dog》とともに来館者をお迎えします。

4. 様々な角度から「りんご」の豊かさとさらなる可能性に触れる

りんご栽培の1年や、りんごの研究に取り組む地元の機関・施設の活動を紹介する資料を展示するほか、研究者やりんごの生産者を招いたトークやレクチャーなどを「弘前エクスチェンジ#03」として展開していきます。全国の市町村の中りんごの生産量が最も多く、国内有数のりんご生産地である弘前ならではの取り組みです。



本展 展示風景 Photo: ToLoLo studio

弘前エクスチェンジについて

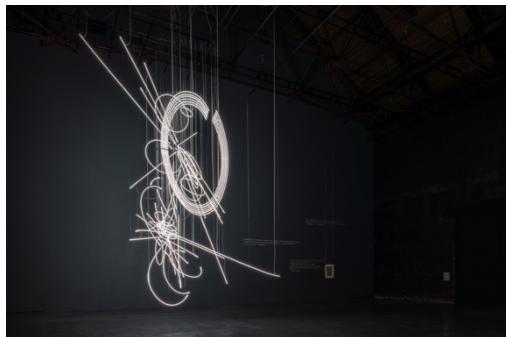
弘前ゆかりのアーティスト、クリエイター、研究者らに注目し、異なる視点が交差・交換される場を生み出すことで、新たなアプローチで地域性の考察、創造的魅力の再発見に繋がることを目指す「弘前エクスチェンジ」を年間を通して行なっています。

展示作品について

ケリス・ワイン・エヴァンス

Cerith WYN EVANS

2019年5月に弘前訪問を経て、美術館の吹き抜け空間に合わせて構想した巨大な彫刻作品《Drawing in Light (and Time) ...suspended》はりんごから想起される多様な「プロセス」に着想を得た、様々な形状のネオンを組み合わせた抽象的な作品です。本作に加え、館内各所に侵入するかのように、光や音を用いた旧作も3点展示されます。これらの作品は、様々なソースや文脈からの引用、本歌取りや言葉遊び、記号表現（シニフィアン）と記号内容（シニフィエ）といったワイン・エヴァンスの制作手法や関心を示すとともに、啓示や思考のサイクルなどを暗示します。



ケリス・ワイン・エヴァンス
《Drawing in Light (and Time) ...suspended》2020年
弘前れんが倉庫美術館蔵 Photo: ToLoLo studio

河口龍夫

KAWAGUCHI Tatsuo

りんごの種子を鉛で封印し、放射線からも守られた種が未来に育ち実が成ることを示唆した「関係」シリーズと、地球からの距離（光年）から逆算し、その星の光が何年前の光かを記した「COSMOS」シリーズが、展覧会の最初と最後の空間に、象徴的に展示されます。身近なものと宇宙の彼方にある存在に同時に意識を巡らせ、様々な事象の関係を捉える作品群が、再生やサバイバル、生きることについての深い思索を促します。



河口龍夫《関係—鉛の郵便・ふた粒のリンゴ》1988年
Courtesy of SNOW Contemporary

雨宮庸介

AMEMIYA Yosuke

本展では「本物より本物らしいりんご」の具象彫刻や大量のアイディアスケッチ、アーティスト本人による語り、映像などで構成される作品群を発表します。古い星図やギリシャ神話、弘前の土地、シードル工場といったりんご伝来の足跡に重ねながら、マクロとミクロのダイナミズムを通して立体的にりんごに思いを馳せる試みです。本作では、個人的な思い付きと妄想、身体的な体験の集積が世界や宇宙の在り方についての問い合わせにも繋がり展開されます。



雨宮庸介《チャールズのかしの木座にりんごの実のなる》2021年
個人蔵 作家蔵 Photo: ToLoLo studio

タカノ綾

TAKANO Aya

中央の絵画に、左右の新作の絵画を組み合わせて3枚組みで構成される大型絵画作品が展示されます。りんごを生命や超自然の象徴として、ヒンドゥーの叙事詩『マハーバーラタ』に収められた聖典歌集バガヴァッド・ギーターや、縄文時代の円形の遺構、盆踊りといった様々な源泉から発想した意欲的な作品です。大地の目覚めの祝祭的な雰囲気のもと、古代と現代、聖と俗、混沌と調和、対峙と融合、歓喜と狂気が混在する独自の超自然的な作品世界に鑑賞者を招き入れます。

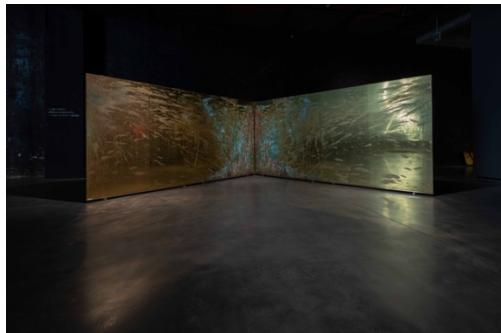


タカノ綾 nga
左:《円舞、りんごの輪、光の輪》2021年 中:《根源の近く》2017年
右:《円舞、宇宙の輪、光の輪》2021年
Courtesy Perrotin Photo: ToLoLo studio

和田礼治郎

WADA Rejiro

作家の代表作と本展に合わせて新たにりんごを中心とする果実を用いて制作された新作も加えた東北初の本格的な展示です。りんごそのものではなく、その痕跡や不在、変容が示され、時間の経過や、生の儂さなどについての問いを独自に彫刻化した作品群を紹介します。また、（りんごにも繋がる）緋色に象徴される聖と俗、相反する両義性に注目し、その色のフィルターを通して見慣れた都市や自然の風景を異化し、それらが内包する傷、その裏に潜む人間の対立や矛盾を浮き彫りにします。

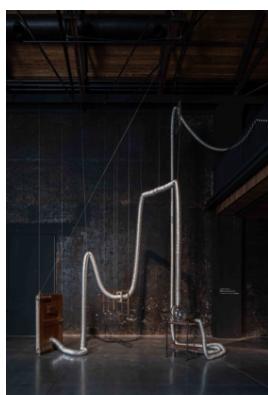


和田礼治郎《ヴァニタス》2021年 作家蔵
Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE Photo: ToLoLo studio

笹本晃

SASAMOTO Aki

2020年度に開催した展覧会「Thank You Memory—醸造から創造へ」で展示した《スピリットの3乗》は、作品の主要な要素であるパフォーマンスがコロナ禍で延期されていました。本展では、笹本晃の会期中のパフォーマンスの実施に向けて、改めて形を変えて展示します。窓、扉、梯子など空間を隔てたり、繋いだりするパーツと空気を送り込むダクトの連なりが、1階の展示室から2階の屋根裏にあるシードル工場時代の貯水タンクへと伸びていき、ケリス・ウィン・エヴァンスによる新作のテーマのひとつである「りんごからシードルへの加工・生産の残像」に共鳴します。



笹本晃《スピリットの3乗》2020年 弘前れんが倉庫美術館蔵
Photo: ToLoLo studio

ジャン=ミシェル・オトニエル

Jean-Michel OTHONIEL

新作コミッショナーアークとして長期展示される《エデンの結び目》に加え、りんご、シードル、りんごブランデーの色にちなんだムラーノガラス作品などを紹介します。自然のなかで見つけた形状を抽象やカリグラフィーに変換、変容させる作風で知られるオトニエルは、美や愛、永遠の一方で禁断、高慢、誘惑といったりんごの意味の二重性に興味を持ち、そうした相容れない力が自然界において補完し合い、繋がり、相互依存することで自然界のバランスが保たれていることを視覚化します。



ジャン=ミシェル・オトニエル《エデンの結び目》2020年
弘前れんが倉庫美術館蔵 Photo: ToLoLo studio

潘逸舟 (ハン・イシュ)

HAN Ishu

弘前エクスチェンジ #01の招聘アーティストとして、昨年度から継続する弘前でのリサーチや、潘の母校である弘前大学教育学部附属中学校の美術部員とのワークショップなどを通じて構想した新作インсталレーション《おにっこのはりんごジュースの滝》を展示します。津軽に伝わる鬼（津軽弁で「おにっこ」）の信仰とりんごの2つの歴史が時空を超えて出会うというストーリーに基づき、洞窟のような作品空間が展開されます。そこに住み着く身体を想像することで、「故郷とは何か」という問い、そして、コロナ禍における他者との距離や社会との関係性を再考しようと試みます。



潘逸舟《おにっこのはりんごジュースの滝》2021年
弘前れんが倉庫美術館蔵 Photo: ToLoLo studio

アーティスト紹介



Photo: Ali Janka

ケリス・ワイン・エヴァンス / Cerith WYN EVANS

1958年英国、ウェールズ生まれ。ロンドン在住。1980年代から実験的な映像作品を手がけ1990年代以降はネオン、音、鏡などを用いて制作。哲学や音楽、天文学、物理学など多様な分野に基づく作品は、国際的に高い評価を得ている。各国の主要美術館で個展を行っており、2019年は巨大な展示空間で知られるミラノのハンガービコカにて個展を行った。



雨宮庸介 / AMEMIYA Yosuke

1975年、茨城県生まれ、ベルリン在住。独自の話法を用いたパフォーマンス、普遍性に超絶技巧をかけあわせた具象彫刻、1300年かかるプロジェクトなど、さまざまな手法を用いた作品は、鑑賞者をいつのまにか違う位相へと連れ出し、物事の境界線への再考を促す。



撮影：斎藤さだむ

河口龍夫 / KAWAGUCHI Tatsuo

1940年、兵庫県神戸市生まれ、千葉県在住。1960年代から精力的に作品を発表し続け、国内外より高く評価されている。物と物、あるいは物と人などの相互の関係性をテーマに作品を制作し、多様なものを銅や鉛、蜜蠍で包み封印する作品で知られる。時間や生命、あるいはエネルギーなど、目に見えない関係そのものを作品を通じて顕在化させることで、可視化が困難な概念を鮮やかに提示する。



©Aya Takano
/Kaikai Kiki Co., Ltd.

タカノ綾 / TAKANO Aya

1976年、埼玉県生まれ、神奈川県在住。多種多様なジャンルからインスピレーションを得て独自の宇宙を構築するタカノは、至福や理想郷をテーマにアンドロジナスな人物や動物の姿を描いた神話的世界観が漂う作風で知られる。SFをテーマにしたエッセーや漫画も手がける。



Photo: Enric Duch

和田礼治郎 / WADA Reijiro

1977年、広島県生まれ、ベルリン在住。形態、時間、液体、自然、生の儂さを暗示する「ヴァニタス（空虚）」という古来の主題などの諸要素への関心を、独自の手法で彫刻化していく。それは時には自然そのものを用いて環境に直接的に働きかけ、多次元的な、生きる彫刻として私たちが生きる空間や時間に介入し、我々の知覚に作用を及ぼす。



Photo: Philippe Chancel

ジャン=ミシェル・オトニエル / Jean-Michel OTHONIEL

1964年、フランス / サン=テティエンヌ生まれ、パリ在住。1990年代初頭より、変容、昇華、変異などの現象に関心を寄せながら、可逆性の素材を用いた作品を制作している。特にムラーノガラス等を用いた、展示環境と調和する数々の大型彫刻で世界的に知られる。



Photo: Kazuko Fukunaga

笹本晃 / SASAMOTO Aki

1980年、神奈川県横浜市生まれ、ニューヨーク在住。空間を彫刻的に分節し、その環境の中で自らの身体によるダンスや、言葉、モノを用いた即興的なパフォーマンスを行う作品を中心に、彫刻やインスタレーションを発表している。



潘逸舟（ハン・イシュ） / HAN Ishu

1987年、中国 / 上海生まれ、東京都在住。社会と個の関係の中で生じる疑問や戸惑いを、自らの身体や身の回りの日用品を用いて、映像、インсталレーション、写真、絵画など様々なメディアを駆使しながら、真摯に、時にユーモアを交えながら表現する。

弘前エクスチェンジ#03

弘前りんごプラットフォーム

第3回を迎える「弘前エクスチェンジ」では、りんご栽培の1年や、りんごの研究に取り組む地元の機関・施設の活動を紹介する資料展示のほか、本展の会期中は月2回程度、リレー形式のトークやワークショップを実施します。りんごに関する研究者による講義形式のレクチャー、本展参加アーティストや生産者などを交えたトークなどを行い、立場の異なる複数の視点が交差する「弘前りんごプラットフォーム」を展開していきます。

* レクチャー、トークの一部は YouTube でライブ配信を行い、終了後は後日アーカイブ動画の公開を予定しています。
* 6月下旬以降に開催するプログラムの詳細や申し込み方法は、決定次第、当館ウェブサイトや SNS でお知らせします。

トーク オープニングトーク

出演 | 雨宮庸介、タカノ綾、和田礼治郎、潘逸舟 司会 : 三木あき子（本展キュレーター）

日時 | 2021 年 4 月 10 日（土）14:00 – 16:00

会場 | ライブラリー

料金 | 参加無料 定員 | 30 名（予約先着順）

申込み | 予約サイト URL <https://20210410talk.peatix.com> 電話 0172-32-8950

レクチャー りんごの色づきのメカニズム

「りんごはどうして赤く見えるのか」「どうして赤くなるのか」などについて、りんごがもつ「色彩」をキーワードにお話しします。

出演 | 荒川修（弘前大学農学生命科学部国際園芸農学科 教授）

日時 | 2021 年 4 月 24 日（土）14:00 – 15:00

会場 | 展示室 4

料金 | 参加無料 定員 | 15 名（事前予約優先）

申込み | 予約サイト URL <https://20210424talk.peatix.com> 電話 0172-32-8950

トーク りんご園の暮らし 動物たちとの共存

「共存」をキーワードに、動物たちとりんご園、そして農家の暮らしやりんご園での楽しみについて探ります。

出演 | ムラノ千恵（弘前大学農学生命科学部 機関研究員）、石岡千景（りんご農家）

日時 | 2021 年 5 月 8 日（土）14:00 – 15:00

会場 | 展示室 4

料金 | 参加無料 定員 | 15 名（事前予約優先）

申込み | 予約サイト URL <https://20210508talk.peatix.com> 電話 0172-32-8950

トーク りんごをもっと楽しむために

りんごを収穫するまでには 1 年を通じて様々な農作業が行われます。りんご栽培の 1 年や栽培を通じて体験したことなど、「栽培」をキーワードに、アーティストの雨宮庸介氏とりんごの研究を行う林田大志氏が語ります。

出演 | 雨宮庸介（本展参加アーティスト ※オンライン出演）、林田大志（弘前大学農学生命科学部 助教）

日時 | 2021 年 5 月 22 日（土）14:00 – 15:00

会場 | 展示室 4

料金 | 参加無料 定員 | 15 名（事前予約優先）

申込み | 予約サイト URL <https://20210522talk.peatix.com> 電話 0172-32-8950

トーク 移り住む（仮）

いま私たちが食べているりんごはいわゆる「西洋りんご」と呼ばれるもので、元々は海外から持ち込まれた果実です。本トークでは「移住」をテーマに、9歳で上海から弘前へ移住してきたアーティスト・潘逸舟氏と、弘前に移住し、りんご生産者でもある永井温子氏が「移り住むこと」や「その土地で暮らしていくこと」について互いに語ります。

出演 | 潘逸舟（本展参加アーティスト ※オンライン出演）、永井温子（KIJIMARU APPLE）

日時 | 2021年6月5日（土）14:00-15:00

会場 | 展示室4

料金 | 参加無料 定員 | 15名（事前予約優先）

申込み | 予約サイト URL <https://20210605talk.peatix.com> 電話 0172-32-8950

上映 映画『りんごのうかの少女』（脚本・監督：横浜聰子）

青森県出身の映画監督・横浜聰子氏の新作映画『いとみち』の公開に合わせて、映画『りんごのうかの少女』（2013年）を上映します。本作には、弘前市を拠点に活動する「RINGOMUSUME（りんご娘）」のメンバーである、ときが主演しています。

日時 | 2021年6月11日（金）18:30-19:30

2021年6月12日（土）14:00-15:00、18:30-19:30

会場 | スタジオB

料金 | 一般 500円、高校生以下無料 定員 | 各回 20名（事前予約優先）

申込み | 予約サイト URL <https://20210611-12movie.peatix.com> 電話 0172-32-8950

ワークショップ りんご農作業体験

りんご園を営む永井温子氏の畠「KIJIMARU APPLE」を訪れて、実際にりんごの農作業を体験します。農家の方がこの季節にどのような作業を行っているのかを体験できます。実すぐり・袋かけの作業を予定しています。

講師 | 永井温子（KIJIMARU APPLE）

日時 | 2021年6月19日（土）9:30-12:30（予定）

会場 | KIJIMARU APPLE（弘南鉄道大鰐線石川駅から徒歩約15分）

料金 | 500円 定員 | 5名（要事前予約）

ワークショップ りんごの木箱づくり

りんごが出荷される際に用いられる木箱は、現在ではインテリアとしても注目されています。今回のワークショップでは、手軽で日常使いがしやすい大きさのりんごの木箱を制作します。箱を組み立て終わった後は、スタンプやクレヨンなどで絵を描いて、オリジナルの木箱に仕上げます。

日時 | 2021年7月10日（土）11:00-12:00（予定）

会場 | 吉野町緑地公園（弘前れんが倉庫美術館前）

料金 | 1000円 定員 | 10組（要事前予約）

トーク りんごシティー 弘前りんごで作られるまちの暮らし（仮）

りんご生産量が全国一を誇る弘前市では、街中でもりんごをモチーフにした街灯やマンホールなどが見られます。弘前市がりんごによっていかに形成されているのか、「経済・暮らし」をキーワードにお話しします。

日時 | 2021年7月25日（日）14:00-15:00

出演 | 高橋哲史（kimori）、森山聰彦（もりやま園） モデレーター：工藤健（弘前経済新聞 編集長）

会場 | 展示室4

料金 | 参加無料 定員 | 15名（事前予約優先）

トーク 美術史のりんごたち（仮）

本展の展示室内では「美術史のりんごたち」と題して、紀元前から近現代における西洋美術史上のりんごの表象の例を紹介しています。りんごは、西洋美術史において、古来より生命のはかなさ、原罪や美と愛など様々な意味の象徴として多く描かれてきました。そんな美術史上のりんごについてお話しします。

出演 | 出佳奈子（弘前大学教育学部 准教授）ほか

日時 | 2021年8月7日（土）14:00－15:00

会場 | 展示室4

料金 | 参加無料 定員 | 15名（事前予約優先）

関連プログラム

笹本晃《スピリットの3乗》パフォーマンス

笹本晃（本展参加アーティスト）によるインсталレーション作品《スピリットの3乗》を構成する要素のひとつであるパフォーマンスを行います。

日時 | 2021年6月（予定）

会場 | 展示室4

学芸スタッフによるギャラリーツアー

日時 | 本展会期中 毎週日曜日 11:00－12:00

集合場所 | 1階受付前

料金 | 参加無料（要当日観覧券）

音声ガイド

来館者が自身のスマートフォンを使って聴くことができる音声ガイドを公開します。会場に提示されたQRコードを読み取ってご利用いただけます。

※4月中に公開予定

展覧会ブックレット

作品解説や展示風景写真、テキストなどを収録した展覧会ガイドブック（日英バイリンガル）を2021年7月上旬に発行予定です。当館隣接のショップ、または、オンラインストアで予約いただけます。

仕様 | A5判（表紙：片覗き）、64ページ（予定）、フルカラー

価格 | 800円（税込）

オンラインストア URL <https://brickec.base.shop/>（オンラインストアでは5月下旬より予約開始）

当館や本展に関する情報は、以下の公式アカウントでもご覧いただけます。

Instagram @hirosaki_moca

Twitter @hirosaki_moca

Facebook @hirosaki.moca

Youtube <https://www.youtube.com/watch?v=8qx10fDGm30>

note <https://hmoca-museum.note.jp/>

開催概要

- | プログラム名 : 2021 年度 春夏プログラム
「りんご宇宙—Apple Cycle / Cosmic Seed」
- | 会期 : 2021 年 4 月 10 日 (土) - 8 月 29 日 (日)
- | 開館時間 : 9:00 - 17:00 (入館は閉館の 30 分前まで)
- | 休館日 : 火曜日 (祝日の場合は翌日に振替)
※ただし 4 月 27 日 (火) 、 5 月 4 日 (火) 、 8 月 3 日 (火) は開館
- | 観覧料 : 一般 1,300 円 (1,200 円) 大学生・専門学校生 1,000 円 (900 円)
※ () 内は 20 名様以上の団体料金
※ 以下の方は無料
高校生以下の方/弘前市内の留学生の方/満 65 歳以上の弘前市民の方
ひろさき多子家族応援パスポートをご持参の方/障がいのある方と付添の方 1 名
- | 主催 : 弘前れんが倉庫美術館
- | 協賛 : 株式会社津軽りんご市場
- | 助成 : 公益財団法人 花王 芸術・科学財団
- | 協力 : ニッカウヰスキー株式会社
- | 後援 : 東奥日報社、デーリー東北、陸奥新報社、青森放送、青森テレビ、
青森朝日放送、NHK 青森放送局、エフエム青森、FM アップルウェーブ
弘前市教育委員会
- | ゲスト・キュレーター : 三木あき子
- | 会場 : 弘前れんが倉庫美術館 ☎036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1
- | 一般問合せ : TEL: 0172-32-8950
- | アクセス : JR 弘前駅より
- 弘南バス・土手町循環 100 円バス「土手町十文字」下車 徒歩 約 4 分
- 徒歩 約 20 分
- タクシー 約 7 分
- | ウェブサイト : <http://www.hirosaki-moca.jp>
- | SNS : Instagram : @hirosaki_moca
Twitter : @hirosaki_moca
Facebook : @hirosaki.moca

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当: 大澤、石川 (公)

TEL : 0172-32-8950 FAX : 0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp ☎036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

次回展 開催告知

2021 年度 秋冬プログラム

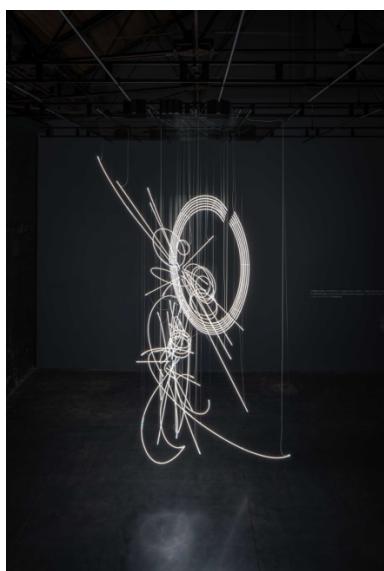
りんご前線—Hirosaki Encounters

2021 年 9 月 18 日（土） - 2022 年 1 月 30 日（日） 弘前れんが倉庫美術館（青森県・弘前市）

第一部（春夏プログラム）「りんご宇宙—Apple Cycle / Cosmic Seed」に続く第二部（秋冬プログラム）は、異なる角度からふたたび「りんご」に着目します。

「りんご前線—Hirosaki Encounters」と題された本展では、りんごのテロワール（土壤）である「弘前」と、異なる気団の境界・交線で起こる大きな気象の変化や、運動の第一線などを意味する「前線」をキーワードとして展開します。弘前ゆかりのアーティストの活動や弘前の土地に関する作品、さらには異文化との出会いや新たな解釈から生まれた作品などに注目します。

継続して展示を行うケリス・ワイン・エヴァンスの作品を基点としつつ、第一部とは異なる複数のアーティスト、作品ラインアップによる展示をご覧いただきます。本展を通じて、地域の創造的魅力に注目するとともに、ひとつの作品を核とした二部構成で展示を行うことで、より自由な展示のリズムと空間の使い方を探り、作品の多様な解釈を促します。



ケリス・ワイン・エヴァンス
『Drawing in Light (and Time) ...suspended』 2020 年
弘前れんが倉庫美術館蔵 Photo: ToLoLo studio

2021 年度 冬プログラム

会期：2022 年 2 月 11 日（祝・金） - 3 月 21 日（祝・月）（予定）

※プログラムの詳細が決定次第、お知らせいたします。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川（公）

TEL : 0172-32-8950 FAX : 0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

FAX: 0172-55-5982 または E-MAIL: press@hirosaki-moca.jp

2021年4月9日

弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市）

りんご宇宙—Apple Cycle / Cosmic Seed

会期：2021年4月10日（土）- 8月29日（日）

広報画像申請書

▼貴媒体についてお知らせください。

| 媒体名

| 貴社名

| ご担当者

| 所属部署

| ご住所 〒

| 電話番号

| FAX 番号

| E-MAIL

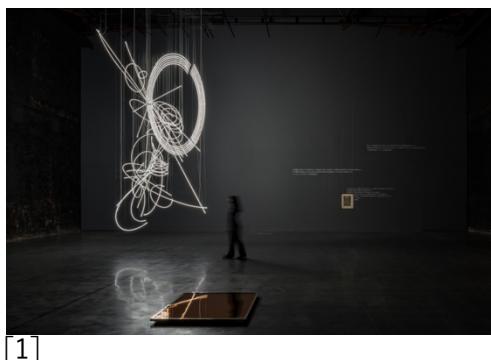
| 掲載・放映の予定が決まっていたらお知らせください。

| 読者プレゼントのご希望 希望する 組 名様 (2021年7月31日迄 掲載対象) 希望しない

*画像1点以上ご掲載の場合、本展の招待券10枚まで提供します。 / 美術館までの交通費は自己負担のご案内をお願いします。

▼広報画像は、希望される画像の番号に「○」で印をつけてください

[りんご宇宙—Apple Cycle / Cosmic Seed]



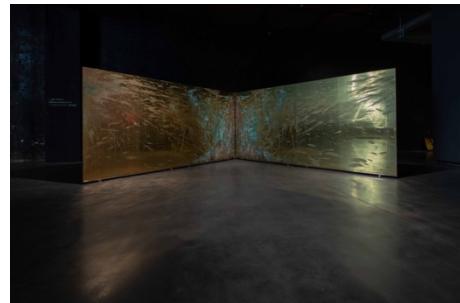
[1]



[2]



[3]



[4]



[5]



[6]



[7]



[8]

広報画像にはすべて以下キャプション・クレジットを併記してください

- [1] ケリス・ワイン・エヴァンス 《Drawing in Light (and Time) ...suspended》 2020年 弘前れんが倉庫美術館蔵
Photo: ToLoLo studio
- [2] タカノ綾 左: 《円舞、りんごの輪、光の輪》 2021年 中: 《根源の近く》 2017年
右: 《円舞、宇宙の輪、光の輪》 2021年 Courtesy Perottin Photo: ToLoLo studio
- [3] 潘逸舟 《おにっこちはりんごジュースの滝》 2021年 弘前れんが倉庫美術館蔵 Photo: ToLoLo studio
- [4] 和田礼治郎 《ヴァニタス》 2021年 作家蔵 Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE Photo: ToLoLo studio
- [5] ケリス・ワイン・エヴァンス 《Drawing in Light (and Time) ...suspended》 2020年 弘前れんが倉庫美術館蔵
Photo: ToLoLo studio
- [6] 雨宮庸介 《チャールズのかしの木座にりんごの実のなる》 2021年 個人蔵 作家蔵 Photo: ToLoLo studio
- [7] 河口龍夫 手前: 《関係一鉛の郵便・ふた粒のリンゴ》 1988年 個人蔵
奥左: 《Cosmos-Corvus (からす座)》 1974年 作家蔵
奥右: 《Cosmos-Corona Borealis (かんむり座)》 1974年 作家蔵
Photo: ToLoLo studio
- [8] 笹本晃 《スピリツの3乗》 2020年 弘前れんが倉庫美術館蔵 Photo: ToLoLo studio

[長期展示作品]



[9]

- [9] ジャン=ミシェル・オトニエル 《エデンの結び目》 2020年 弘前れんが倉庫美術館蔵 Photo: ToLoLo studio

<広報画像、取扱に関する規定>

- 広報画像の使用は美術館をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。
- 広報画像をご紹介いただく場合、指定のキャプションとクレジットを必ずご記載ください。
- 全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせは原則禁止となっております。
- 掲載記事・番組内容については、基本情報確認のため、可能な範囲でゲラ刷り・原稿の段階で広報までFAXまたはメールでお送りください。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当: 大澤、石川 (公)

TEL: 0172-32-8950 FAX: 0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1